

## 女性会連盟ニュース 52号

Japan Evangelical Lutheran Church Women



## ひびき

第25期主題 …主イエスのまなざしと出会う…

神さまに、隣人に、そして社会に仕える

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい ローマの信徒への手紙12章15節

発行:日本福音ルーテル教会女性会連盟・発行者:八木 久美

## 「出会いと出合いが交差する時」

出合い=人や思い入れのあるものが思いがけなくあうこと。めぐりあい  
 出合い=遭遇・主に事物がであうこと。川と川、川の本流がであうこと

会長 八木 久美

早咲きの桜の便りが女性会のみなさまへ届く候となりました。新型コロナウイルスの脅威に覆われた2020年2月から2年を超えた長期間、私たちは目まぐるしく変わる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の実施・延長・解除の狭間で、集うことへのStop and Goを繰り返してきました。また、それぞれの暮らしと教会の礼拝や活動に於いて、集うことの一つひとつを改めて自問自答する日々は今も続いています。

その流れの中で昨春6月には個教会・教区・全国の女性会活動の連帯によって構成された女性会連盟の第25回総・大会が開催されました。多くの困難な状況乗り越えた24期役員会と九州教区の現地実行委員会、関係者のご奉仕に心から感謝いたします。

6/8は会員の思いの集大成が決議され、6/9の礼拝「恵みは十分=わたしは弱いときにこそ強いからです」、講演「人生100年時代・未知の時代の到来」のメッセージと共に、25期へ新たにバトンが渡されました。

今期役員会では今迄の経緯を踏まえて未曾有の状況下で、何とか初年度に連盟役員・各教区会長・協力委員・事務局が一堂に会する=集う場を創出したいと模索しました。その結果 関係者の協力を得て全てが整えられた形で、昨年11月22(月) - 23日(火・祝)の両日、恵比寿にある一般財団法人JELA多目的ホールを会場に第1回拡大役員会を開催することが叶いました。

当日はまん防措置解除の合間を縫い全国から役員が到着。早々の開会礼拝で小勝奈保子牧師「霊の導きに従って歩みなさい。私たちは霊の導きに従って生きているのなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう。-ガラテヤの信徒への手紙5:16-26-」の奨励・祈り・賛美により、一

同の心身が徐々に整えられていきました。

以下は二日間の主な内容です。

〈挨拶〉小勝牧師/役員/教区会長/協力委員/事務局員

〈報告〉教区+2教会/協力委員/連盟

〈協議事項〉▷総会提言/連盟全体の現状-会員数/休会/構成 ▷連盟/教区+2教会/協力委員の包括的連携(超教派含め) ▷サバ神学院 ▷会報 ▷各教区・連盟のあり方

〈JELAの働きの紹介〉古屋四郎理事長

参加者は時間の制約の中で、疑問や意見を積極的に出し合い協議、昼食(黙食に近い)や休憩時の談笑も手強い理解を深めた密度の濃い二日間の成果を再会の約束と共に各地へ持ち帰りました。その後の各教区会長・協力委員からの展開はみなさまご存じのことでしょう。



\*JELA多目的ホールにて

連盟役員会では先の拡大役員会での協議確定事項の内容を精査確認し対応の段階で新しい年を迎えて、年度替わりの対応もありご報告が遅くなりましたことをご了承ください。各関係者・関係機関との連携も調整しながら、その後の進捗状況も踏まえた詳細を次号会報へ掲載準備中です。

こうして私たちは過ぐる一年と先の拡大役員会を振り返りながら祈りの内に、出会いと出合いが交差する時、その場に主のご臨在と祝福が豊かにあることを深く味わい得た恵みに感謝いたします。

2022年の今春、全国的なウイルス感染再拡大によるまん防再発出と期間延長、さらにロシアのウクライナ侵攻という現実に関心を痛める日々が続いています。祈りを合わせて、今できることへの連帯を求めていきたいと願っています。

- 四旬節に平和の主を覚えて -

## 第25期 第1回拡大役員会

2021.11.22(月)-23(火)祝

会場：一般財団法人 JELA  
1階多目的ホール

付箋に込めたメッセージ…女性会の今、ここから見えてくること

### － 東教区 －

<活動>

- 役員会:リモート9回、対面1回開催。
  - 「女性会の今と今後」教会/男性/若者対象にアンケートの実施。
  - 春の集い:書面送付、秋の女性の集い:書面送付・対面/ハイブリッド開催。
  - 会報シャロンの花だより発行準備。
- <課題>
- ▶教区37教会中、女性会加入教会:24、未加入:1、休会:12。
  - ▶コロナ禍で活動休止→会費納入など困難な女性会もある。

会長:神庭 靖子

### － 東海教区 －

<活動>

- 役員会:2回、3回目を12月開催。メール/ライン/電話→10月:対面式が可能。
  - 会報アガパンサス6月発行。2号は12月発行。
- <課題>
- ▶各教会女性会が高齢化を迎え、難しいが支え合って維持継続している。

会長:金高 江美子

### － 西教区 －

<活動>

- 役員会:対面1回、リモート8回開催。
  - Zoomで米国の姉妹教会と合同女性会/交流会。
  - ACWC:Zoom一日研修会参加。
  - まなざし通信の配信。
  - 会報はなみずき12月発行(今後年1回予定)。
  - 地区修養会「はなみずきの集い」予定。
- <課題>
- ▶オンライン会議システムを身近に。
  - ▶各教会のネットワーク環境・プロジェクト整備。

会長:三輪 真理

### － ACWC －

- 11/12オンラインZoom一日研修会を全国展開で実施し好評。「主によって新しくされて」。パキスタン作成の式文・発題:伊藤世里江師。
- コロナ禍で「署名キャンペーン」の名称を支援献金へ変更。
- 会場献金:個教会で工夫してお届け頂き感謝。
- リストコイン:2021年度、各国の厳しい現状から交付申請は見送った。

協力委員:岸田 多希子

### － NCC －

- 2022年世界祈祷日式文はイングランド、ウェールズ、北アイルランド。オンライン(東京集会)+集会を計画。
- 小規模の集会も奨励。
- ニュースレター「ともに証しを」発行。
- コロナ禍により集会ができず献金額が減少している。
- 慰安婦問題の解決、ミャンマー民主化、脱原発活動。

協力委員:安田やまと

### － いくくしみ －

- コロナ禍で関東・関西委員共に集まる活動を自粛、今後を検討している。
- ルーテルの4団体(日福・近畿・西日本・日ル)と連携。
- 東教区は日本ルーテル教団と協働。
- 研修会や会合を企画。アジアの女性ははじめ様々な人々の環境/伝統/文化/言語の違いを理解・紹介し、繋がりを深める。

協力委員:石飛 久子

### － 連盟役員 －

- 役員会議事録作成/会員数調査・年間スケジュールの確認/拡大役員会/研修会しおり作成。
- 会長代行は現時点ではない。

コロナ禍の活動制限下でスタートして初めて尽くしの中、拡大役員会を開催。各教区会長・協力委員が直に顔と顔を合わせ意見交換、今期の方向性を確認でき大変心強い。蓋を開ける迄の不安は、それぞれが役を担い働きを分かち合えたことで徐々に変えられた実感がある。今後も繋がることで互いが近くなり、良い働きができればと願う。

副会長/書記:徳弘 由美子

### － 連盟役員 －

- 会計業務の確認/計報連絡/おみやみカード・クリスマスカード発送。
- 業務の詳細は連盟事務局のサポートに感謝。密な確認が可能。

コロナ禍始動の今期。前期役員から引継ぎ、模索しながら進めてきた数か月。ようやく11月に各教区会長、協力委員と一堂に会する役員会の開催へこぎ着けたことは大きな感謝。各教区の様子や課題、また協力委員の働きを参加者間で共有することが出来た。不自由な生活が続く中、互いの協力と連携によって今期の働きを進めていきたいと思う。

会計:立野 照美

### － 連盟役員 －

- 今期特集SDGs/ホームページの活用/個教会女性会の取り組み紹介へ重点。
- 点字会報/CD会報準備。
- 会報サイズ、誌面リニューアル。

今期初回の女性会連盟会報の作成にあたり、原稿依頼はメールや電話で実施。その時点で顔を合わせたことのない教区の会長や協力委員への依頼は勘所がつかみづらい面もありながら、拡大役員会で意見を交わし思いを聞き合うことで、互いの距離がぐんと縮まった。Zoom会議にも慣れてはきたが、やはりそこに共に居ることは大切だと知らされた思いがある。

広報:廣瀬 美由紀

\*一般財団法人 古屋 四郎理事長の「JELAのご紹介」は会報164号に掲載予定です。

参加者：小勝奈保子牧師・各教区会長 - 東 / 神庭靖子、東海 / 金高江美子、西 / 三輪真理、九州 / 榎津直江・書面参加：函館教会 / 須藤幸子、札幌教会 / 佐藤 順子・協力委員：ACWC / 岸田多希子、NCC / 安田やまと  
書面参加：ACWC / 新城智恵美、いつくしみ / 石飛久子、LWF/WICAS / 望月 通子) 敬称略

連盟役員 - 会長 / 八木 久美、副会長・書記 / 徳弘由美子、会計 / 立野照美、広報 / 廣瀬美由紀  
事務局員 - 富里雪子、中原あゆみ

## － 九州教区 －

### <活動>

- 役員会：リモート4回、対面・リモート2回開催。
- 会報みちしるべ7月発行。2号は12月発行予定。
- 会長会開催。
- アンケートを実施：若い世代の加入・ご高齢者への関わり方を協議。
- TNG：若い世代のプログラム支援。

### <課題>

- ▶若い人が加入しない。
- ▶未加入教会が多くなっている。

会長：榎津 直江

## － 函館教会 －

- 第3日曜礼拝後、壮年会と合同で昼食/例会/聖書の学び。
- 難民キャンプへ衣料支援/古切手送付/釜ヶ崎への衣料支援。
- 赤かぶ漬け物づくり・販売。
- 工夫して小さなセルフバザー(教会)を実施。
- 女性会、壮年会の垣根を越えて教区の教会の繋がりを大切に。

会長：須藤幸子

## － 札幌教会 －

- コロナ禍に11/7婦人会例会を再開し声を出す賛美に感謝。
- 聖書の学び+牧師の補足説明。小泉基牧師「分かち合いの食卓」の紹介。
- 80代以上の方々へクリスマスプレゼントを差し上げる。
- 例会は毎月：聖書の学び/交わり/顔を合わせて近況報告。

会長：佐藤 順子

## － LWF-WICAS －

- Her-stories「行動する女性たちの物語：教会と社会における改革の歴史」→70部限定：連盟事務局より希望者へ発送中。
- LWFウクライナ支援への連帯も。
- WICASが構築した既存資料：将来へ有効な資料の掘り起こし/可視化。

協力委員：望月 通子

## － 課題協議 －

### <ACWC協力委員>

- 発信の場が少なく案内方法がひとつの課題。
  - ▶研修会等の案内：①教区会長から個教会へ一斉配信が良い。
  - ②連盟から各教区会長への配信協力も希望。
  - ③誰でも閲覧可能なホームページ。
- ### <NCC・ACWC協力委員>
- 全国への情報提供をカバーできていない面がある。
  - 情報発信を連盟ホームページからリンクは可能か。

## － 課題協議 －

### <計報連絡>

- 本教会事務局→個教会牧師・代議員、各法人・関係団体へ配信。
  - ▶女性会連盟は会計が担当→各教区女性会長へ配信→個教会女性会長→個教会会長の取扱はさまざま。
  - ▶情報の共有化で間違いはなくしたい。
- ### <会報・計報の掲載>
- ▶拡大役員会で会報第164号から従来規約通りの対象者の方々と、全会員召天者(教区・芳名のみ)を年1回記載することへ協議確定。

## － 課題協議 －

### <会長経験者からの提言>

- 会報163号の内容について。
- 合同役員会の表記：各教区会長・連盟役員で構成し、個教会は該当しない。
- ▶組織図の掲載スペースの都合上→(矢印)配置など解釈の違いを招き易い結果。→今後、分かり易い展開図を掲示の方向。
- 召天者の紹介：女性会連盟内規第11条に抵触するか。
- ▶164号会報より年1回、会員全召天者(教区/芳名)を掲載。従来通り連盟会長、牧師、宣教師、その配偶者は掲載。
- 「第1回」拡大役員会の記載は今後、継続した開催と取れるのでは。
- ▶規約第7条「必要に応じて開催」とあり、コロナ禍の状況から役員会は必要と判断。「第1回」の記載は正確を期すため。

## － 課題協議 －

### <サバ神学院>

- 29年前に支援開始。献金支援は継続しているが、担当窓口がない。
  - ▶教区や個人の方々の関わりで関心の温度差がある。→現地の状況、支援してきた卒業生のその後が見えない。
  - ▶女性会連盟の枠から支援の輪を広げる→例)後援会等の呼びかけ。→関わりの深い方々と次回総会迄に懇談し相談の方向。
- ### <会員数減少/休会教会の増加>
- 時代に即した女性会の目的・価値の見直しを。
  - ▶コロナ禍やオリンピック開催で多様性が問われる今、通信手段の選択肢も増え、変化のチャンス。
  - ▶連盟主催オンラインの集いの企画。→例)女性の視点で聖書を読むなど。

## － 課題協議 －

### <4教区>

- 横の繋がりが更に必要では。各役割担当者間の状況確認なども。
  - 会費徴収/納入は女性会入会の妨げのひとつ。
  - ▶所属教会での会費と効果が見えない場合、参加意識が希薄になる傾向。→講演会や学びの会の開催リクエストなどもぜひ提示してほしい(連盟)。
  - ▶今後も密な連携を希望。
- ### <6月の連盟大会講演会>
- 各教区・教会での受信状況は。
  - ▶教区から全体へ案内はなく、個教会の受信環境により、教会で団体視聴・自宅で視聴。講演後のYouTube配信は後日利用も多く見受けられた。

## ロシアのウクライナ軍事侵攻に対するわたしたちの立場と人道支援の呼びかけ



ルーテル世界連盟 声明「ウクライナに平和の回復を」  
ルーテル世界連盟は、ウクライナに対するロシアの軍事攻撃を深く憂慮します。命が失われ、傷つけられ、資産は破壊され、人々は退去させられ、緊張が高まっており、ウクライナとその周辺地域において、またヨーロッパ全土に渡って、紛争は深刻かつ危険な状況に向かっています。

キリスト者として、私たちは平和の使者であることへと召し出されています。「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイ5:9)それゆえに、私たちはあらゆる形態の暴力を非難します。私たちは即時停戦と平和の回復を求めます。人権ならびに国際人道法は、この紛争における全ての関係者によって尊重されなければなりません。民間人と民間のイ

ンフラストラクチャーは守られなければなりません。

退去させられ、緊急の人道支援を必要としている人々を含め、影響を受けたウクライナの人々との国際的な連帯を私たちは求めます。国境を開放し、戦争行為から逃れてくる人々を迎え入れることを各国政府に私たちは求めます。ウクライナおよび、基本的な生活必需品、避難所、牧会的・心理的支援を含む援助を提供する周辺諸国にある教会への支援を私たちは求めます。

平和が勝利しなくてはなりません。

人間の尊重が守られなければなりません。

2022年2月25日

ルーテル世界連盟事務局長 アンネ・ブルクハルト

<https://www.lutheranworld.org/new/restore-peace-ukraine>

わたしたちは、ロシアによるウクライナ軍事侵攻を深く憂慮します。戦争におびやかされているあらゆる人々の安全といやしをなにより祈りつつ、すべての暴力に反対し、即時停戦と平和委を求める、ルーテル世界連盟(LWF)の声明に賛同します。

またわたしたちは、ルーテル世界連盟が呼びかけているウクライナ・ドイツ福音教会と近隣国のルーテル教会を通じたウクライナ人道支援への協力を、みなさんに呼びかけます。日本福音ルーテル教会は、連帯献金としてすでに献げられている災害支援献金から7500ユーロ(約100万円)をルーテル世界連盟へ送金いたしました。思いを寄せて下さるみなさまには、以下の呼びかけと送金先をご確認の上、どうぞご支援をお寄せ下さい。

「平和の神があなたがた一同と共にいてくださいますように、アーメン。」(ローマ15:33)

2022年3月2日

日本福音ルーテル教会

議長 大柴 譲治

社会委員会 委員長 小泉 基

## ルーテル世界連盟からのウクライナ人道支援の呼びかけ

LWFは人々と教会を支援するための献金を求めます

2022/2/25



ルーテル世界連盟(LWF)は、ロシアによる軍事侵攻のために、故郷から逃れ、避難所・食糧や水などの基本的な生活必需品を求めるウクライナの諸教会と人々を支援するための献金の呼びかけを開始しました。

LWF事務局長アンネ・ブルクハルト牧師は「この支援は銃火と爆撃から逃れて必死に避難場所を捜す人々の声明に関わるものです。全ての献金が価値あるものです。」と述べています。

### ■支援の必要性

ウクライナ国内においてもまた近隣諸国においても、多くの民間人が安全と安心を捜し求めています。また精神的な外傷を負った人々は牧会的・心理的支援を必要としています。ウクライナ及び近隣諸国のルーテル教会とディアコニア組織は既に支援を提供、もしくはその準備を進めています。緊急キット、基本的な生活必需品、避難所、基本的な医療サービス、牧会的配慮、そして心理的支援などもこれに含まれます。ウクライナ・ドイツ福音ルーテル教会が現地での支援を提供しており、住民に対する支援を増強しています。ウクライナ・ドイツ福音ルーテル教会はウクライナの人々に対する人道的支援と同様に外交的支援を求めています。

近隣諸国の教会指導者からも支援を約束しています。今週送られた牧会的通信で、ポーランドのJerzy Samiec監督は信徒達に

「ウクライナからの人々を受け入れ、困難な時の間の支援を提供する」ことを呼びかけました。監督は「今こそ共に立って、戦争からの避難所と支援を必要としている人々に援助を提供すること」が必要であることを強調しました。ハンガリーのTamas Fabiny監督ならびにこの地域の他の教会指導者からも困窮の内にある人々への援助を主張し、信徒達に対して受け入れと支援を呼びかけました。

LWFは、人道主義の原則と国際的基準に従って、困窮の内にある全ての住民に対する人道援助を提供する加盟教会を支援しコーディネートします。またLWFは平和のためのアドヴォカシーに取り組むとともに、そうしたアドヴォカシー活動を行う加盟教会を支援します。

近隣諸国では、ポーランドアウグスブルク信仰告白福音教会、スロヴァキア共和国アウグスブルク信仰告白福音教会、ルーマニア福音ルーテル教会、ルーマニアアウグスブルク信仰告白福音教会、ハンガリー福音ルーテル教会がLWF加盟教会です。

<https://www.lutheranworld.org/news/ukraine-lwf-calls-donation-support-people-and-churches>



### ■連帯献金の送付先

郵便振替:00190-7-71734 口座名:[(宗)日本福音ルーテル教会]  
「ウクライナ人道支援献金」とご明記ください。(一次締切5月末日)

ウクライナへ祈りと支援の輪で連帯しましょう